

「こおりやまの米」通信



Vol.6 平成23年7月2日

編集:郡山市

JA 郡山市 (TEL. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (TEL. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 TEL924-3761)

がんばろう ふくしま!

1. 生育概況

平年に比べ、6月の気温は最高気温、最低気温ともに1半旬を除き、高く経過しました。日照時間は下旬を除き多くなりました。降水量は全般を通し少なくなりました。

7月1日の調査では平年に比べ、草丈はコシヒカリが長く、ひとめぼれは短く、茎数は両品種とも少なくなりました。ただし、移植時期、ほ場間、地域間でばらつきがあります。

県農業総合センターの6月30日調査(移植4/30、5/16の作柄データ)は、田植時期によりわずかに異なるものの、草丈は長く、茎数は多く、葉数は多くなっています。

病害虫防除所によると6月の斑点米カメムシ類の発生は、平年に比べやや多くなっています。

7月1日生育調査結果

品 種	年 次	草丈 cm	茎 数	
			株あたり	m ² あたり
コシヒカリ (三穂田)	本 年	55.9	28	490
	平年比差	104%	96%	82%
ひとめぼれ (片平)	本 年	48.5	32.2	580
	平年比差	95%	91%	98%
あきたこまち (湖南)	本 年	430	16	300
	平年比差	101%	75%	65%

2. 天気予報(1ヶ月予報 7月1日発表)

<予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。

2週目は、高い確率60%です。

<予想される8、9月の天候>(3ヶ月予報 6月23日発表)

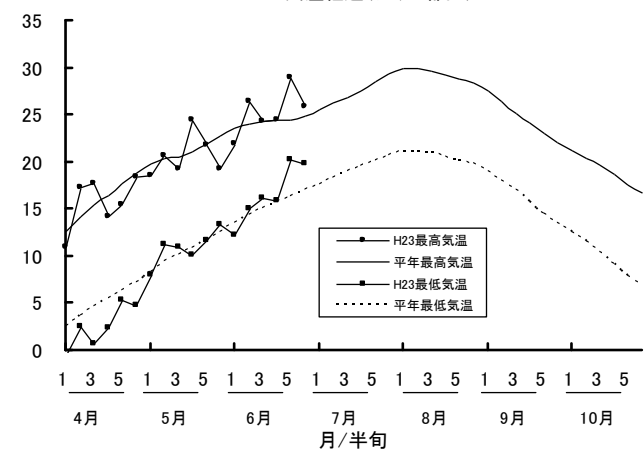
8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

雷雨の発生しやすい時期がある見込みです。

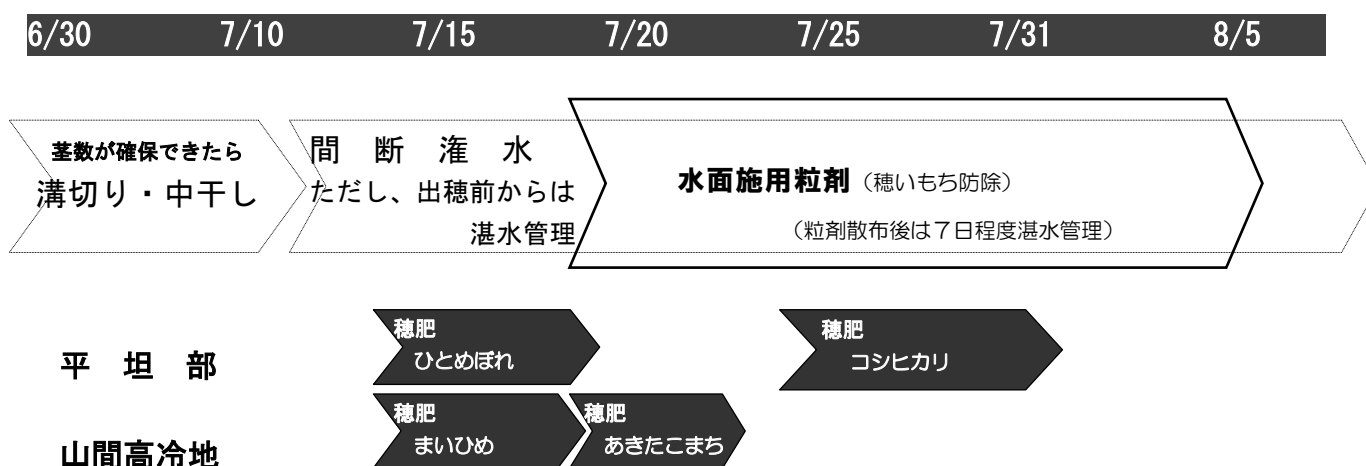
9月 天気は、数日の周期で変わるでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

H23気温経過(アダス郡山)



3. 病害防除等作業の目安 (管内の主要品種の平年の生育を元にしてあります。ほ場ごとに生育を確認し、作業日程を決めて下さい。)

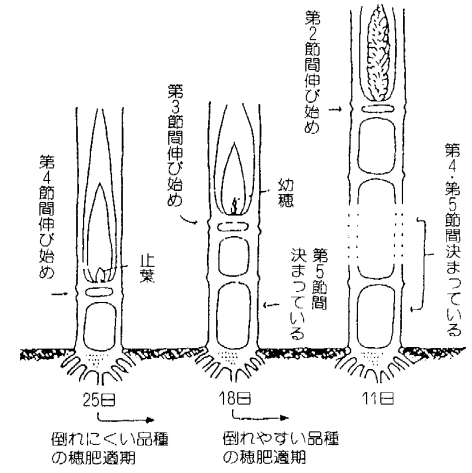


※穂いもち防除用の水面施用粒剤は薬剤により施用時期が異なります。確認の上、ご使用下さい。

4. 穂肥

- (1) ひとめぼれは、幼穂形成期（出穂25～20日前）にチッソ成分2kg/10aを基本に生育状況を見て量を加減しましょう。
コシヒカリは、減数分裂期（出穂15～10日前）にチッソ成分2kg/10aを基本とします。
- (2) 草丈が長く葉色の濃い場合は、量を減らすか時期を少し遅らせましょう。
 7月15日までに明らかに葉色が淡くなった場合は、穂肥の前にチッソ成分1kg/10a以下（早く効く肥料）でつなぎ肥を施用しましょう。
- (3) 出穂期は天候により変化しますので、幼穂長等を確認し、適期に追肥しましょう。

* 基肥一発の場合は、原則として穂肥は行いません。



追肥のチッソ成分2kgの目安（10aあたり）

肥料銘柄	N-P-K	効き方	施用量
NKC6号	17-0-17	早い	12kg
IB4号	15-4-15	ややゆっくり	13kg
こおりやま2号	10-2-10	ゆっくり	20kg

幼穂長による出穂前日数の判定

幼穂長	出穂前日数	備考
1.5mm	24日	幼穂形成期
2.0mm	20日	
40.0mm	15日	減数分裂期

5. カメムシ類対策 玄米千粒(約23g)にカメムシ被害粒が2粒入ると等級落ちになるよ!

カメムシの発生はやや多いと予想されます。

薬剤で防除する場合、スタークル粒剤(湛水して散布)、MR.ジョーカー粉剤DL、スミバッサ粉剤20DLを散布してください。

※ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡(所有者不明の場合は県中家畜保健衛生所 TEL923-1661)を密にし、事故のないようにしましょう。

6. 穂いもち対策

梅雨入りし、いもち病に感染しやすい気象条件となっています。葉いもち防除を実施していない場合は、いもち病感染の危険が高まっていますので、注意してください。

- ① **粒剤**で予防する場合は、下記薬剤を、**7月中旬～下旬に散布**しましょう。

コラトップ粒剤5、フジワン粒剤等

- ② 早期発見・早期防除につとめ、病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤等で防除しましょう。

この資料は、平成23年7月4日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

農薬（特に粉剤・液剤）を使用する際は、近隣作物に飛散しないよう、注意してください。

次回発行予定(7月中旬) 内容: 追肥・カメムシ防除・水管理等

農薬危害防止運動 平成23年6月1日～8月31日

6月～8月は、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬の使用量がもっとも多くなる時期です。

農薬を使用するときは、安全かつ適正に取り扱い、農薬による危害と事故を防止しましょう。

